



気負いも気取りもないが、
目には力がある。

火の国 阿蘇の
恵みのブランド

自然 zen A s o C i t y

九州大学工学部機械航空工学科に進学したのは、
宇宙へ行ってみたいと少年時代から切望していたからだだったが、
「入ったはいいいけど、あまりの難度の高さに落ちこぼれ」

夢は挫折する。そんなとき、アラスカを舞台にしたある写真を見た。
ヘラジカの死体についた苔が森を再生させるという、

壮大な生命のドラマに感動し、たまたまアラスカへ向かい、
ヒッチハイクで極寒の地を彷徨った。

さらにバンクーバーまで足をのぼし、カナダ人陶芸家と親しくなる。
その出会いこそが、いまの田中耕治さんの生業に繋がるわけだが、
すべての人生選択にわたって、「たまたまです」。

およそ気負いというものがない。

帰国して唐津焼窯元に弟子入りし、三年修業してから阿蘇に移った。
温泉地帯の粘土を使い、ススキの灰を釉薬とするなど
阿蘇らしさを工夫する。

どうりで、その器にはことごとく草原の風が香っている。

工房ゆう 田中耕治

あるがまま、という貴さ。

人と自然が共作する阿蘇。